

○計画期間:令和2年7月～令和8年3月(5年9月)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和4年度終了時点(令和5年3月31日時点)の中心市街地の概況

令和2年7月からスタートした第3期基本計画は、基本理念を『飯田美しき町』魅力的な丘のまちの形成」とし、「美しい丘のまちのデザインづくり」「丘のまちの居場所・交流空間づくり」「丘のまちの快適な暮らし創造」「丘のまちの新たな価値創造」の4つの目標を掲げ、これらの目標達成のために事業を展開している。

昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症（以下：コロナ）の影響により、各施設では休館や利用制限により予定通り事業を進めることは難しい状況だったが、屋外でのイベントは飲食等に配慮した感染対策をとることで、概ね予定通り事業を開催することができた。

中心市街地の各施設利用者数は前年度を超える施設が多く、さらにコロナ前の基準値を超える施設もでてきているため、徐々に中心市街地へ訪れる人が増えている状況にある。飯田市立動物園では過去最高の入園者数を記録し、飯田市立中央図書館も利用者を大幅に更新しており中心市街地の賑わい創出に大きく寄与している。

一方で通行量調査により、歩行者の増加にはつながっていないという結果も出ているため、特定の施設目的で訪れている利用者を、街中へ誘導する取り組みが有効と考えられる。現在の取り組みとしては、中心市街地のシンボル「りんご並木」を歩行者天国化し各種事業を開催することで、街中誘導と併せて関係・交流人口拡大に取り組んでおり、今年度は感染対策を講じ概ね予定通り開催でき、約6万人の集客につなげることができた。

また、令和4年5月に駅前大型施設改修工事が完了し丘の上結いスクエアとして竣工した。2・3階の公共施設には公民館機能や賑わい交流機能が設置され各種事業に取り組むことで利用者増加につながっている。

中心市街地に従来からある商店街では、コロナの影響もあり空き家・空き店舗が増加している。「地区空き家バンク連携事業」や「まちなか起業推進事業」等の支援策により成果はでているが、物価高等による新規出店へのマイナス材料もあるため、現状に即した支援を検討し対策を講じていく必要がある。

計画全体では、目標を達成していない事業も多くあるが、昨年度と比較し改善がみられる事業が増えてきているため、引き続き各事業に応じた取り組みを推進していく。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(基準日：毎年度1月1日)

(中心市街地 区域)	平成30年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
人口	8,660	8,365	8,217	8,062			
人口増減数		-295	-148	-155			
自然増減数		-220	-106	-134			
社会増減数		-69	-40	-21			
転入者数		480	262	243			
地価	67,900	64,300	62,400	60,800			

2. 令和4年度の取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

・リニア中央新幹線の長野県駅が郊外に設置される当地域では、リニア駅周辺は広域交通拠点としての限定的な機能を整備することとしており、中心市街地は引き続き当地域の中心拠点であり続けることが確認されている。

・中心市街地活性化基本計画は、リニア中央新幹線と三遠南信自動車道の全通がもたらす大交流時代を迎えるにあたって、中心市街地の魅力を高め、ひいては飯田市及び南信州圏域全体のポテンシャルを高めるためにも重要な計画といえる。

・令和4年度の取り組みは、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症（以下：コロナ）の影響を受けた事業も多く、数値目標もコロナ前の基準値に届かない項目も見られるが、前年度対比では改善がみられる項目も多く見られるため今後の事業展開に期待したい。

・コロナによる経済への影響は大きく、商業機能等が集積する中心市街地は特に大きな影響を受けてきた。5類感染症への位置づけに伴い「行政が関与していく仕組み」から「個人の選択による自主的な取組」へと国の方針も変更され、経済や人の動きが回復しつつある。この状況を適切に捉え、長い歴史の中で文化や伝統を育み、各種機能を培ってきた「まちの顔」である中心市街地の機能をさらに高めて、市及び周辺市町村含め経済・活力を取り戻す動きにつなげていきたい。

・今後は、飯田市立動物園、中央図書館、美術博物館等の施設と併せて、りんご並木をさらに活用していくことで、大きなフィールドとしての回遊性を高める取り組みを推進していく。

・特に、まちづくりのシンボルであるりんご並木では、歩行者優先道路を活かし定期的に事業を開催しているが、新たな取り組みとして歩行者専用道路を目指した社会実験を行い街中の賑わい創出をさらに推進していく。

・リニア中央新幹線と共に、信州大学の学部誘致の実現を見据え、デジタル産業をはじめとする、新しい産業の基盤としてのオフィス街、住みやすい住宅の整備、文化活動を推進するための施設整備、都市機能の充実した若者が活躍できる街づくりが期待されるなか、中心市街地活性化協会では中心市街地の現状を把握し今後を見据えるため「飯田市中心市街地整備研究調査報告書」をまとめたため、中心市街地活性化の取り組みに活

用いただきたい。

・ 中心市街地活性化協会としても、これから迎える新しい時代のために、更に現状の整理と課題の調査を行い、再開発事業を含めた今後の研究を行っていく。

・ 飯田市の総合計画「いいだ未来デザイン 2028」実現のために、小さな世界都市の顔ともいえる中心市街地のあり方について、その機能・役割分担、都市デザインなどについて積極的に検討を進めていく。

Ⅱ. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

目標	目標指標	基準値 (平成 30 年)	目標値 (令和 7 年)	最新値 (令和 4 年)	基準値からの改善 状況	前回の 見通し	今回の 見通し
美しい丘のまちのデザインづくり	歩行者・自転車通行量(休日)	9,475 人/日 (平成 30 年)	10,400 人/日 (令和 7 年)	5,512 人/日	C	1	1
丘のまちの居場所・交流空間づくり	都市福利施設利用者数(年間)	209,214 人/年 (平成 30 年)	214,800 人/年 (令和 7 年)	150,214 人/年	C	2	1
丘のまちの快適な暮らし創造	新規出店数	3 店舗/年 (平成 20 年～平成 30 年度の平均)	5 店舗/年 (令和 2 年 7 月～8 年 3 月の平均)	6 店舗/年	A	①	①
丘のまちの新たな価値創造	文化・交流施設利用者数(年間)	284,094 人/年 (平成 30 年)	299,600 人/年 (令和 7 年)	319,056 人/年	A	1	①

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値より改善、C : 基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

①目標達成が見込まれる ②目標達成が見込まれない

※関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ 1、2 とする。

2. 目標達成見通しの理由

「歩行者・自転車通行量」は、基準値対比で約 41%減少し目標値を約 47%下回っている。これは、通行量調査実施直前まで県内全域に医療警報が発出されていたことから、人との接触機会をできる限り減らす動きを引きずったものと考えられる。時間帯別通行量の基準地対比では、8 時～14 時の時間帯の減少幅が大きい、一方で 14 時～19 時の時間帯は昨年度と比較し増加しており、特に 17 時～19 時の時間帯は基準値対比で約 24%減少、昨年度比では約 22%増加している。コロナの影響もあり中心市街地の滞在時間が、昼食後や夕食時の短時間滞在の傾向に変化していると考えられる。しかし、文化・交流施設利用者数の増加等、中心市街地へ訪れる人は増えているため、特定の施設目的で訪れている利用者を、街中へ誘導する仕組みを構築する等の施策を展開し目標の達成を目指す。

指す。

「都市福利施設利用者数」は、基準値対比で約 28%減少し目標値を約 30%下回っている。コロナの影響により、公共施設は休館及び利用制限の期間を設けていたことが利用者減少の要因と考えられる。一方で、主要 2 事業の内 1 事業は目標を達成しており、調査した 8 施設の内 2 施設が基準値を上回っている。また、昨年度対比で約 6 %増加していることから、都市福利施設の利用は回復傾向にあるといえる。

「新規出店数」は、基準値対比で 3 店舗増加し目標値を 1 店舗上回っている。これは、コロナの影響を見極めるうえで今後の経営に踏み出す後押しとして各事業や支援策が活用された結果と考えられる。物価高等による新規出店へのマイナス材料もあるが、昨年度に引き続き目標値を上回っているため、現状に即した支援策に取り組むことで、さらに目標を上回る成果が見込まれる。

「文化・交流施設利用者数」は、基準値対比で約 12%増加し目標値を約 6 %上回っている。公共施設では休館及び利用制限の期間を設けていたことを考えると、日単位の利用者数は増加していると考えられる。飯田市立動物園は昨年度対比で 22%増加、基準値比で 17%増加し、飯田市立中央図書館は令和 4 年 5 月にムトスぷらざへ貸出スペースを設けたこともあり、昨年度対比で 25%増加、基準値比で 26%増加し目標達成に大きく寄与している。また、調査地点 6 施設の内、基準値を超えている施設は 2 施設にとどまっているが、5 施設は昨年度を上回る利用者数となっていることから、文化・交流施設利用者数はコロナから回復傾向にあり改善がみられるため目標達成が見込まれる。

3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

「歩行者・自転車通行量」

前回から変更はない

「都市福利施設利用者数」は、

目標達成見通しについては、令和 4 年度フォローアップでコロナにより公共施設の利用制限を受けただけでなく、人との接触機会をできる限り減らす国の方針もあったため、公民館を中心に想定以上に利用者数が減少していたことから、目標達成が見込まれない（２）と評価した。その後、令和 4 年度当初に飯田市公民館、橋南公民館の移転に伴い利用者数も大幅に回復してきているため、令和 5 年度は目標達成が見込まれる（１）と評価した。

「新規出店数」

前回から変更はない。

「文化・交流施設利用者数」

目標達成見通しについては、令和 4 年度フォローアップでコロナにより各施設が休館及び利用制限をしていたにもかかわらず利用者の減少幅は少なかったことから、目標達成が見込まれる（１）と評価した。その後、全国的に人流が回復していく中で、飯田市立動物園や飯田市立中央図書館等では予想を上回る集客があり、他の多くの施設も前年度を上回る状況となっていることから、令和 5 年度は目標達成が見込まれる（①）と評価した。

◆美しい丘のまちのデザインづくり

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 109～P. 111 参照

歩行者・自転車の通行量（休日）

年度	通行量
H30	9,475
H31	6,388
R4	5,512
R6	10,400

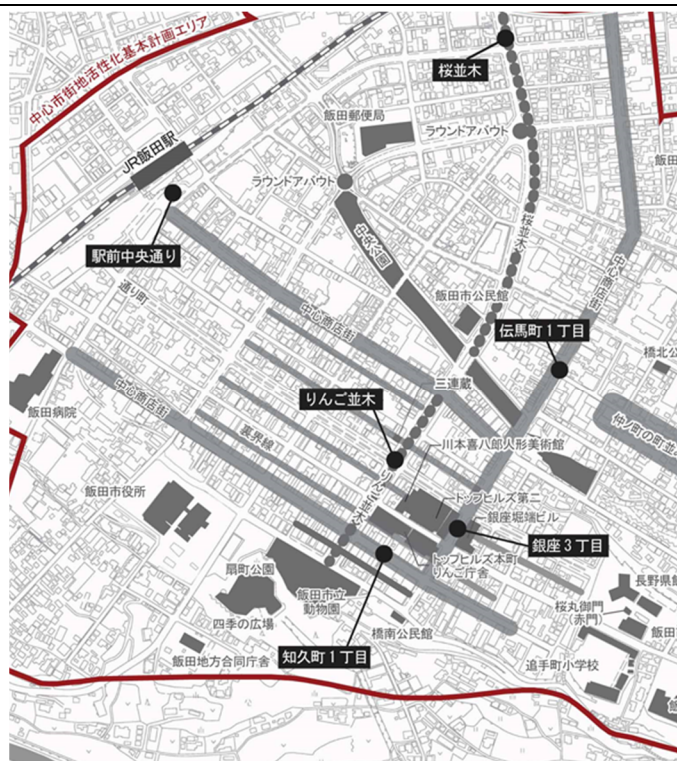
年	(単位：人/日)
H30	9,475 (基準値)
R2	
R3	6,388
R4	5,512
R5	
R6	
R7	10,400 (目標値)

※調 査 月：令和5年10月

※調査主体：飯田市

※調査対象：歩行者及び自転車 土曜日6地点

(駅前・中央通り、りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目、桜並木)



(単位：人/日)

	平成 30 年度 (計画前年度)	令和 2 年度 (1 年目)	令和 3 年度 (2 年目)	令和 4 年度 (3 年目)	令和 5 年度 (4 年目)	令和 6 年度 (5 年目)	令和 7 年度 (6 年目)
駅前・中央通り	3,316		2,212	2,286			
りんご並木	1,774		1,246	686			
知久町 1 丁目	744		390	378			
銀座 3 丁目	2,734		1,534	1,310			
伝馬町 1 丁目	640		564	448			
桜並木	267		442	404			
合計	9,475		6,388	5,512			

〈分析内容〉

コロナの影響を受ける前の基準値と比較し全体で約 41%減少している。理由として、通行量調査実施直前まで県内全域に医療警報が発出されていたことから、人との接触機会をできる限り減らす動きを引きずったものと考えられる。調査地点別ではりんご並木が前年度対比で約 45%減少しているが、前年度はりんご並木の清掃作業と同日だったこともあり通行量が多かったが、令和元年度以降 1,000 人を超す通行量はなくコロナの影響もあり減少傾向となっている。時間帯別通行量を分析すると、8 時～14 時の時間帯が特に顕著な影響が出ており、基準値対比で約 55%減少している。一方 14 時～19 の時間帯は基準値対比で約 42%減少、昨年度比では約 7%増加している。特に 17 時～19 時の時間帯は基準値対比で約 24%減少、昨年度比では約 22%増加している。このことから、コロナの影響もあり中心市街地に滞在する時間は一日を通じた長時間滞在ではなく、昼食後や夕食時の短時間滞在の傾向にあると考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

(1) 市街地の整備事業による効果

①桜並木整備事業

(飯田市、まちづくり委員会)

事業実施期間	平成 22 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	市民や来街者がゆっくり歩いて鑑賞でき、四季を通じて楽しめる空間として桜並木を整備することで、滞留と回遊の創出を図る
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（飯田市中心市街地地区）） 令和 3 年度～令和 7 年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：391 人/日 最新値：歩行者通行量：404 人/日（目標達成） 調査地点：桜並木 進捗状況：事業予定箇所の一部を整備し、景観含めてより歩きやすい環境づくりをしたことで、目標値を上回る交通量があった。
事業の今後につ	目標値を上回る交通量があった。事業予定箇所内のラウンドアバウ

いて	トを、景観含めてより歩きやすい環境となるよう整備した。今後は周辺道路の整備・改修と併せて歩いて楽しめる空間創出に向けて整備を進めていく。
----	--

(2) 商業施設整備による効果

①旧ピアゴ他駅周辺低・未利用地活用整備事業

(飯田市、飯田市中心市街地活性化協会、㈱飯田まちづくりカンパニー、飯田駅前プラザ㈱)

事業実施期間	令和２年度～令和７年度 【実施中】
事業概要	リニア中央新幹線の開通を見据え、広域交通拠点と中心拠点及び鉄道・バス等の交通結節点となる、旧ピアゴ等を含む飯田駅周辺の低・未利用地について、教育文化施設や賑わい空間施設等の活用整備を官民連携で行うことにより、新たな魅力拠点の創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（飯田市中心市街地地区）） 令和３年度～令和７年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：3,569 人/日 最新値：歩行者通行量：2,286 人/日（目標未達成） 調査地点：駅前中央通り 進捗状況：目標値は 36%下回ったが、昨年度よりは若干増加している。調査地点は交通結節点のため、電車だけでなく市内循環バスや高速バスの利用者も通過する。コロナの影響により高速バス利用者等が少なく状況もあり通行量減少の要因になったと考えられる。
事業の今後について	令和４年５月に建物改修を終え「丘の上結いスクエア」として竣工した。施設内の「公民館機能」「賑わい交流機能」「商業施設」の機能を活かした取り組みを進め交流人口の拡大を図る。

②旧ピアゴ商業施設等整備事業

(吉川建設㈱、商店街ほか)

事業実施期間	令和２年度～令和７年度 【実施中】
事業概要	平成 30 年 9 月末に閉店した飯田駅前大型商業施設「旧ピアゴ」を、内外の観光客等のニーズに対応する複合商業施設へと商店街や民間事業者が一体となり整備することで、域外等から新たな需要を取り込み消費の喚起に繋げる。
国の支援措置名及び支援期間	商店街活性化・観光消費創出事業→社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業（飯田市中心市街地地区）） 令和２年 7 月～令和 7 年度
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：3,569 人/日 最新値：歩行者通行量：2,286 人/日（目標未達成） 調査地点：駅前中央通り

	進捗状況：目標値は 36%下回ったが、昨年度よりは若干増加している。調査地点は交通結節点のため、電車だけでなく市内循環バスや高速バスの利用者も通過する。コロナの影響により高速バス利用者等が少ない状況もあり通行量減少の要因になったと考えられる。
事業の今後について	令和4年5月に建物改修を終え「丘の上結いスクエア」として竣工した。施設内の「公民館機能」「賑わい交流機能」「商業施設」の機能を活かした取り組みを進め交流人口の拡大を図る。

(3) 都市福利施設利用者数増加による効果

①健康福祉拠点活用事業
(（社医）栗山会、カーブス(株)なみき)

事業実施期間	平成 26 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	高齢化が進む中心市街地において、市民の健康寿命延伸のため、銀座堀端ビル等を拠点として、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康支援事業、地域住民の健康・福祉データバンク機能、子育て支援のため整備した拠点を活用することで、まちなか居住者の健康増進と交流の機会の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,915 人/日 最新値：歩行者通行量：2,822 人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：目標値を約 52%下回る結果となった。銀座堀端ビルでは健康福祉サービスを提供しており、近隣住民だけでなく市街地外からの利用者もいるが、コロナの影響を受け銀座堀端ビルだけでなく、周辺施設や飲食店等の利用者も減少している。一方で令和4年4月に橋南公民館がトップヒルズ本町へ移転し、利用者数は昨年度比で約 2 倍に増加しており、公民館での講座等含めて事業は回復傾向にある。
事業の今後について	令和4年5月にトップヒルズ本町1階に商業施設のなみきマーケットが開店し、さらに、店内には交流スペースも設置されていることから、りんご庁舎サロンも含めてまちなか居住者や来訪者に対する新たな交流の場として利用いただけるよう、さらに連携を深めていきたい。

②子育て世代包括支援事業
(飯田市)

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	中心市街地において、子育て世代にとって住みやすい環境づくりが求められており、子育て支援や親子の居場所づくりを行うことによ

	り、来街者の利便性向上や居住人口の増大を図る
国の支援措置名 及び支援期間	子ども家庭応援センター事業
事業目標値・最新 値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,915 人/日 最新値：歩行者通行量：2,822/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：目標値を約 52%下回る結果となった。コロナの影響を受け周辺施設や飲食店等の利用者もコロナ前と比較し減少している。一方でトップヒルズ本町で子育て支援事業として実施しているゆいきっず広場等を含む市民サロンの利用者は昨年度比で 32%増加していることから、事業としては回復傾向にある。
事業の今後について	令和5年4月より市の子育て支援策をさらに充実させるため、新しくこども家庭課をトップヒルズ本町2階に設置し、職員の拡充も図り子育て世代の相談機能等を強化している。引き続き相談窓口やゆいきっず広場の運営等により子育て支援や親子の居場所づくりを推進していく。

③多世代交流拠点事業

（まちづくり委員会、NPO 法人おしゃべりサラダ、飯田市）

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	子育て世代・高齢者等の支援とイベント等の情報交流の場と機会づくりを通じて、誰もが気軽に集える第3の居場所づくりを行い、まちなかの賑わい創出を図る。
国の支援措置名 及び支援期間	地域子育て支援拠点事業
事業目標値・最新 値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,915 人/日 最新値：歩行者通行量：2,822 人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：目標値を約 52%下回る結果となった。コロナの影響を受け銀座堀端ビルだけでなく、周辺施設や飲食店等の利用者も減少していることが理由と考えられる。一方で令和4年4月に橋南公民館がトップヒルズ本町へ移転し利用者数も昨年度比で約 2 倍に増加、ゆいきっず広場も昨年度比で 32%増加していることから、事業としては回復傾向にある。
事業の今後について	令和4年5月にトップヒルズ本町1階に商業施設のなみきマーケットが開店し、さらに、店内には交流スペースも設置されていることから、りんご庁舎市民サロンも含めてまちなか居住者や来訪者に対する新たな交流の場として利用いただけるよう、さらに連携を深めていきたい。

(4) 新規出店数増加による効果

①地区空き家バンク連携事業

(まちづくり委員会、飯田市)

事業実施期間	令和２年度～令和７年度 【実施中】
事業概要	中心市街地の３地区が協働で空き家バンクを開設し、空き家・空き店舗情報を収集する体制づくりと情報発信を行うことにより、まちなかの居住環境整備を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：4,604 人/日 最新値：歩行者通行量：2,136 人/日（目標未達成） 調査地点：知久町１丁目、銀座３丁目、伝馬町１丁目 進捗状況：目標値を約５３％下回る結果となった。調査地点の知久町１丁目、銀座３丁目の周辺施設の飯田市立動物園は昨年度比で約２２％増加、飯田市美術館は昨年度比で約３％増加していることから、人の流れは回復しつつある。
事業の今後について	各地区の空き家リストを引き続き作成し、利活用可能な空き家を精査することで、今後の取り組みにつなげていきたい。また、橋北地区で作成した空き家予防のパンフレットを地域内に周知することで、空き家の減少にもつなげていきたい。

②空き家・空き店舗活用事業

((まちづくり委員会、(株)飯田まちづくりカンパニー、飯田商工会議所、(一社)空き家人情プロジェクト、明治大学、飯田市))

事業実施期間	令和２年度～令和７年度 【実施中】
事業概要	地域、市民団体、各種団体が連携して空き家・空き店舗活用の実行組織・仕組みづくりを構築し、既存施設や空き家・空き店舗の調査、マッチング、開業支援を行うことで、歩いて買物・飲食や滞在ができるまちづくりに取り組むことにより、商業の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：4,604 人/日 最新値：歩行者通行量：2,136 人/日（目標未達成） 調査地点：知久町１丁目、銀座３丁目、伝馬町１丁目 進捗状況：目標値を約５３％下回る結果となった。調査地点の知久町１丁目、銀座３丁目の周辺施設の飯田市立動物園は昨年度比で約２２％増加、飯田市美術館は昨年度比で約３％増加していることから、人の流れは回復しつつある。事業としてはまちづくりカンパニーで事業者とテナントをマッチングし新たに３店舗の出店につなげている。

事業の今後について	地域と明治大学、民間事業者と連携し「春草通り活用事業」とも併せて春創てらす等を開催し、空き店舗等の新しい活用方法を検討・提案し、空き店舗等の活用を促進していく。
-----------	--

③まちなか起業推進事業

(飯田商工会議所、(一社) South-Heart、飯田市中心市街地活性化協会、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	まちなかの経済的な衰退傾向に歯止めをかけるため、空き家・空き店舗活用や商業集積再生の担い手となる起業希望者育成及び開業支援を実施することにより、経済活力の向上を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：4,604 人/日 最新値：歩行者通行量：2,136 人/日（目標未達成） 調査地点：知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：目標値を約53%下回る結果となった。調査地点の知久町1丁目、銀座3丁目の周辺施設の飯田市立動物園は昨年度比で約22%増加、飯田市美術館は昨年度比で約3%増加していることから、人の流れは回復しつつある。事業としては、事業者同士のつながりや新たな事業展開を考える機会の場合としてまちづくり講演会やテント市の開催、開業支援として市の空き店舗活用推進事業補助金を活用し新たに4店舗の出店につなげている。
事業の今後について	空き家・空き店舗を活用した市の起業支援制度活用を推進するため、相談窓口となる飯田商工会議所との連携を更に深めるとともに、起業後間もない事業者の出店支援となる機会を提供し空き店舗等の活用につなげていく。

(5) 文化・交流施設利用者数増加による効果

①春草通り活用事業

(まちづくり委員会、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	仲ノ町から旧飯田測候所を「春草通り」と命名し、地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの活性化を図る。 旧飯田測候所に付属する測風塔を、環境教育とコミュニティ活動の拠点として地域で活用できる展望台施設等へと改修することで付加価値を与え、ソフト事業との相乗的効果を図ることにより、まちなかの賑わいを創出する。
国の支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（飯田市中心市街地地区））
事業目標値・最新	目標値：歩行者通行量：5,956 人/日

値及び進捗状況	最新値：歩行者通行量：2,822 人/日 調査地点：りんご並木、知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目 進捗状況：目標値を約 53%下回る結果となった。文化交流施設利用者は昨年度比約 21%増加、基準値対比でも 12%増加しているため、コロナからは回復傾向にある。事業としては地域と明治大学、民間事業者と連携し「空き家・空き店舗活用事業」とも併せて春創てらす等を開催し、旧飯田測候所を拠点とした事業に取り組み、春草通り及び旧飯田測候所の新たな活用方法を提案した。
事業の今後について	地域と明治大学、民間事業者と連携し「空き家・空き店舗活用事業」とも併せて春創てらす等を開催し、春草通りや公園、旧飯田測候所等の既存資源を活用するとともに、より地域との連携を深めた事業展開を行い目標の達成を目指す。

②丘のまち情報交流サロン事業

(飯田市)

事業実施期間	令和 2 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	中心市街地の情報提供やコミュニティ活動の拠点として、本市の施設を活用した市民交流サロンの検討と整備を実施し、官民連携の事業推進と市民活動の支援を行うことにより、さらなる丘のまちの魅力向上を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,956 人/日 最新値：歩行者通行量：2822 人/日 調査地点：りんご並木、知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目 進捗状況：目標値を約 53%下回る結果となった。文化交流施設利用者は昨年度比約 21%増加、基準値対比でも 12%増加しているため、コロナからは回復傾向にある。
事業の今後について	丘のまち情報交流サロンは当初の予定を変更し、情報提供機能を観光案内所及びまちなかインフォメーションセンターへ、交流機能をりんご庁舎市民サロン及びムトスぷらざへ機能分散し設置している。また、令和4年5月にトップヒルズ本町 1 階に商業施設のなみきマーケットが開店し、さらに、店内には交流スペースも設置されていることから、りんご庁舎市民サロンも含めてまちなか居住者や来訪者に対する新たな交流の場として利用いただけるよう、さらに連携を深め目標達成を目指す。

③ライフスタイルの低炭素化事業

(まちづくり委員会、おひさま進歩エネルギー(株)、飯田市)

事業実施期間	令和２年度～令和７年度 【実施中】
事業概要	中心市街地にあるエコハウス、旧飯田測候所を拠点に、エコライフに関するイベントや環境教育等の省エネルギーを目指したライフスタイルの普及・啓発活動を実施することにより、快適なまちなか居住の推進を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,956 人/日 最新値：歩行者通行量：2,822 人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町１丁目、銀座３丁目、伝馬町１丁目 進捗状況：目標値を約 53%下回る結果となった。文化交流施設利用者数は昨年度比約 21%増加、基準値対比でも 12%増加しているため、コロナからは回復傾向にある。事業としては対象施設であるエコハウスの利用者が、前年対比で約 24%増加している。理由としては管外からの視察等が戻りつつあることに加えて、各種事業の際に施設を活用しイベントや環境教育等の普及・啓発活動に取り組んだ成果と考えられる。
事業の今後について	エコハウス単独事業での集客は難しいことから、沿線で取り組んでいる事業と連携して取り組むことで、事業の推進及び施設利用者の増加に引き続き取り組む。

④丘のまち回遊促進事業

(まちづくり委員会、NP0 いいだ応援ネットイデア、飯田まちなか回遊促進研究会環境文化教育機構(株)、飯田市)

事業実施期間	令和２年度～令和７年度 【実施中】
事業概要	来街者の核施設となる飯田市立動物園を軸に、りんご並木、桜並木、春草通りに点在する個店や飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館等の施設が連携し、まちなか回遊を生み出すスタンプラリー事業の展開により、中心市街と全体の商業活性へ効果が波及を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,956 人/日 最新値：歩行者通行量：2,822 人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町１丁目、銀座３丁目、伝馬町１丁目 進捗状況：目標値を約 53%下回る結果となった。文化交流施設利用者数は昨年度比約 21%増加、基準値対比でも 12%増加してい

	るため、コロナからは回復傾向にある。事業として取り組んでいる「丘の上さんぽラリー」は、コロナ対策として期間長くとり8月と3月の2回に分けて実施した。夏休みと春休みの期間に取り組んだこともあり、例年同様の参加者を得ることができた。
事業の今後について	加盟店をスタンプラリーにより回遊してもらう丘の上さんぽラリーは屋外及び期間イベントということもあり、コロナの影響を大きく受けることなく開催できる。そのため、加盟店の追加や事業内容を見直すなど、更に楽しんでもらえる要素を充実させることで事業参加者の増加を目指す。

⑤丘のまちミュージアム活用事業

(まちづくり委員会、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	飯田市美術博物館、まちづくり委員会、地域商店街等が連携し、飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、歴史文化遺産、文化芸能、町並み、景観のすべてを地域ミュージアムと捉え、それぞれが関連するテーマを題材とする特別展示等を企画し、知的交流拠点となるまちなかを創出し、来訪者の回遊推進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,956人/日 最新値：歩行者通行量：2,822人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町1丁目、銀座3丁目、伝馬町1丁目 進捗状況：目標値を約53%下回る結果となった。文化交流施設利用者数は昨年度比約21%増加、基準値対比でも12%増加しているため、コロナからは回復傾向にある。事業としては、対象施設利用者の前年度比は飯田市立動物園が約22%増加、飯田市美術博物館は約3%増加、中央図書館は約25%の増加となり目標達成に寄与している。
事業の今後について	中心市街地の回遊を補助する電気小型バスや「ソサイエティ5.0社会を見据えたデジタル技術活用まちづくり事業」を有効に活用し施設同士を結び取り組みを強化することで目標達成を目指す。

⑥ソサイエティ5.0社会を見据えたデジタル技術活用まちづくり事業

(丘メン実行委員会、KDDI(株)、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	KDDI(株)の持つ次世代デジタル技術(5G)と中心市街地の歴史的・文化的資源を活用し、新たなまちの賑わいづくり事業を毎年1地区

	で開催することで、関係人口づくりと来街者の回遊促進を図る。
国の支援措置名 及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新 値及び進捗状況	目標値：歩行者通行量：5,956 人/日 最新値：歩行者通行量：2,822 人/日（目標未達成） 調査地点：りんご並木、知久町 1 丁目、銀座 3 丁目、伝馬町 1 丁目 進捗状況：目標値を約 53% 下回る結果となった。文化交流施設利用者は昨年度比約 21% 増加、基準値対比でも 12% 増加しているため、コロナからは回復傾向にある。事業としては KDDI 協力の基、中心市街地の魅力をスマホで体験できる「つながるスポット」のサービスを開始した。県内外で約 2,200 人が体験し関係人口増加につながった。
事業の今後について	中心市街地の魅力を遠方の方には映像で、現地へ来た方には AR で紹介する丘のまち「つながるスポット」の開始により、「現地へ行きたい」をつくる仕組みが構築されたため、現地へ来た方が更に楽しみ、回遊につながるコンテンツを作成し目標達成を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

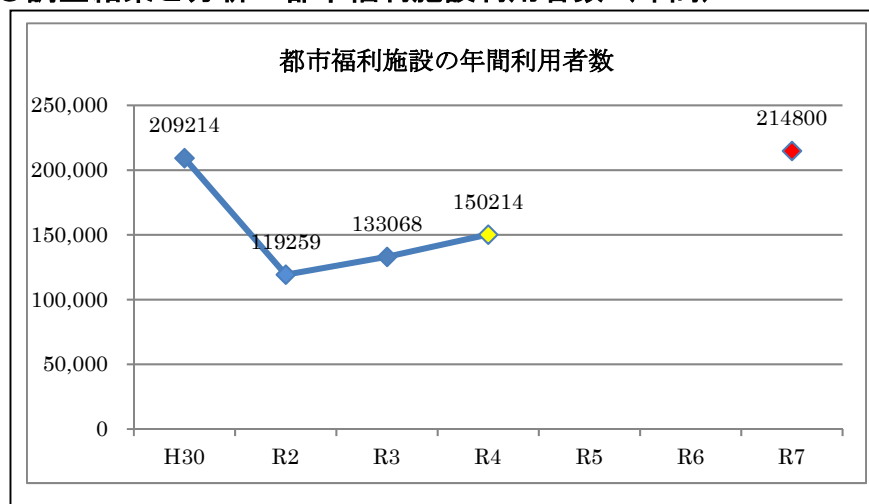
「歩行者・自転車通行量」は、主要 11 事業のうち、目標達成している事業は 1 事業にとどまっている。また、調査した 6ヶ所の内、5ヶ所が基準値を下回っている。しかし、文化交流施設利用者は昨年度比で 21% 増加していることから、中心市街地へ訪れる人は増加しているため、特定の施設目的で訪れている利用者を、街中へ誘導する仕組みを構築し取り組んでいく必要がある。

◆丘のまちの居場所・交流空間づくり

目標指標：都市福利施設利用者数（年間）

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 109～P. 111 参照

●調査結果と分析：都市福利施設利用者数（年間）



年	
H30	209,214 人/年 (基準値)
R2	119,259 人/年
R3	141,008 人/年
R4	150,214 人/年
R5	
R6	
R7	214,800 人/年 (目標値)

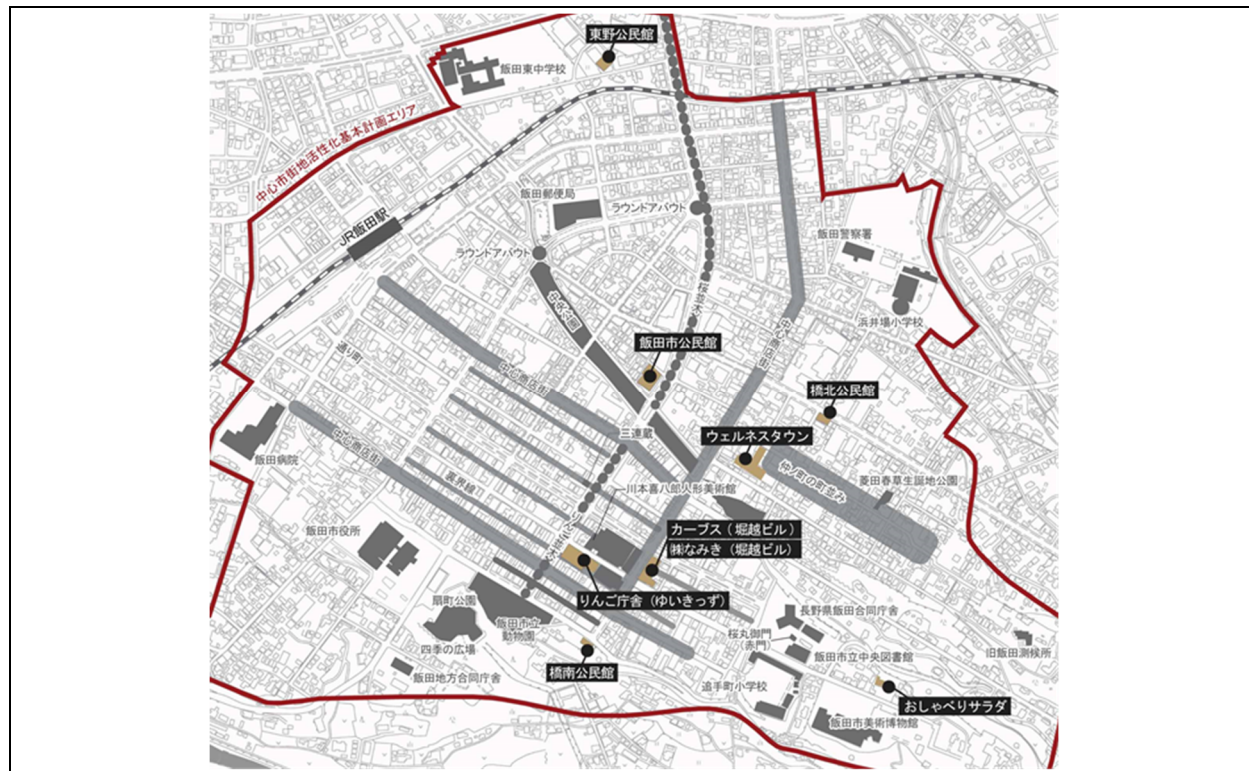
※調査方法：各施設担当者より聞き取り

※調査月：令和5年4月（令和4年度末集計）

※調査主体：飯田市

※調査対象：カーブス、(株)なみき、ウェルネスタウン、ゆいきっず、飯田市公民館、橋北公民館、橋南公民館、東野公民館、おしゃべりサラダ

※「おしゃべりサラダ」は、平成30年度の時点で、計画エリア内で事業を実施していないため、基準値は設けていない。



(単位：人/年)

	平成30年度 (計画前年度)	令和2年度 (1年目)	令和3年度 (2年目)	令和4年度 (3年目)	令和5年度 (4年目)	令和6年度 (5年目)	令和7年度 (6年目)
カーブス	55,261	41,014	47,828	47,386			
(株)なみき ※令和4年度より 堀端デイ	4,843	3,272	2,255	683			
ウェルネスタウン	1,900	2,450	880	628			
ゆいきっず	9,862	13,532	11,606	15,244			
飯田市公民館	73,687	29,654	46,598	44,236			
橋北公民館	21,094	9,842	11,164	13,210			
橋南公民館	8,825	4,703	6,307	12,581			
東野公民館	26,599	14,792	14,410	16,246			

〈分析内容〉

コロナの影響を受ける前の基準値と比較し全体で約25%減少している。理由は、コロナの影響により、公共施設は4月及び8月に休館及び利用制限の期間を設けたことや、民間

施設は運営体制及び利用者制限を設ける等の運営方法の変更により利用者が減少したものと考えられる。また、(株)なみきでデイサービスを運営していたが令和3年度に事業を終了し、令和4年6月より新たに堀端デイが事業を縮小しデイサービスを開始しているため利用者数は減少している。基準値対比で減少しているが、調査した8施設の内2施設が基準値を上回っていること、前年度対比で約6%増加していることから、都市福利施設の利用は回復傾向にあるといえる。一方で、コロナ前の運営方法に戻していない民間施設もあるため、各施設の事業展開や運営方針等の確認と併せて、目標達成に向けた取り組みを検討する必要がある。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

(1) 健康福祉支援による効果

①健康福祉拠点活用事業

((社医) 栗山会、カーブス、(株)なみき)

事業実施期間	平成26年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	高齢化が進む中心市街地において、市民の健康寿命延伸のため、銀座堀端ビル等を拠点として、地域に居住する高齢者の生活支援施策、地域住民の健康支援事業、地域住民の健康・福祉データバンク機能、子育て支援のため整備した拠点を活用することで、まちなか居住者の健康増進と交流の機会の増加を図る。
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：65,324人/年 最新値：施設利用者数：48,697人/年（目標未達成） 調査地点：カーブス、(株)なみき、ウェルネスタウン 進捗状況：目標値を約25%下回る結果となった。コロナの影響による施設の利用制限が原因の一つとして挙げられるが、(株)なみきは地域密着型デイサービス事業に取り組んできたが、中心市街地の高齢者数の減少に伴い、令和4年度から新たに堀端デイが規模を縮小しデイサービスを開始している。また、ウェルネスタウンはコロナの影響をきっかけに利用者制限を設けた運営方法に変更していることが減少の大きな要因となっている。
事業の今後について	ウェルネスタウン内にあるフィットネスクラブ丘の上はコロナにより設けた利用制限を当面解除する予定がないため、各施設の事業展開や運営方針等の確認と併せて、目標達成に向けた今後の取り組みを検討していく。

(2) 子育て支援による効果

①子育て世代包括支援事業

(飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
--------	-------------------

事業概要	中心市街地において、子育て世代にとって住みやすい環境づくりが求められており、子育て支援や親子の居場所づくりを行うことにより、来街者の利便性向上や居住人口の増大を図る
国の支援措置名及び支援期間	国の支援措置なし
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：10,942 人/年 最新値：施設利用者数：15,244 人/年（目標達成） 調査地点：りんご庁舎 進捗状況：目標値を約 39%上回る結果となった。コロナの影響を受け施設として休館日を設けたことにより利用者数が減少すると思われたが、人との接触機会を控える中での子育ての難しさもあり相談等の需要が高まっていることに加えて、飯田市立動物園等の来街者の休憩場所等で活用されたこともあり、利用者数が大幅に増加したと思われる。
事業の今後について	令和5年4月より市の子育て支援策をさらに充実させるため、新しくこども家庭課をトップヒルズ本町2階に設置し、職員の拡充も図り子育て世代の相談機能等を強化している。引き続き相談窓口やゆいきっず広場の運営等により子育て支援や親子の居場所づくりを推進していく。

（３）多世代交流による効果

①多世代交流拠点事業

（まちづくり委員会、NPO 法人おしゃべりサラダ、飯田市）

事業実施期間	令和２年度～令和７年度 【実施中】
事業概要	子育て世代・高齢者等の支援とイベント等の情報交流の場と機会づくりを通じて、誰もが気軽に集える第３の居場所づくりを行い、まちなかの賑わい創出を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和２年７月～令和８年３月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：131,405 人/年 最新値：施設利用者数：86,723 人/年（目標未達成） 調査地点：飯田市公民館、橋北公民館、橋南公民館、東野公民館、NPO 法人おしゃべりサラダ 進捗状況：目標値を約 34%下回る結果となった。理由は、飯田市公民館が令和４年５月にムトスぷらざへ移転しホール機能がなくなったこと（コロナ前ホール利用者：約３万人/年）と、コロナの影響により各公民館では休館及び利用制限期間を設けていたためと考えられる。しかし、飯田市公民館のホールを除いた利用者の比較では、コロナ前の基準値と概ね同数が利用している。さらに指標には含まれていないムトスぷらざ２階・３階のフリースペースでは、

	利用申請だけでも 8,000 人を超えており、高校生をはじめとしたフリー利用者も多くいることから、飯田市公民館全体の利用者は昨年度を大きく上回っている状況である。また、令和 4 年 4 月に橋南公民館がトップヒルズ本町へ移転し、利用者数は昨年度比で約 2 倍、基準値比で約 43%増加している。
事業の今後について	現状では目標値は下回っているが、事業は順調に進んでいるため、公民館での各講座やフリースペースの有効活用により第 3 の居場所づくりをさらに推進し目標達成を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

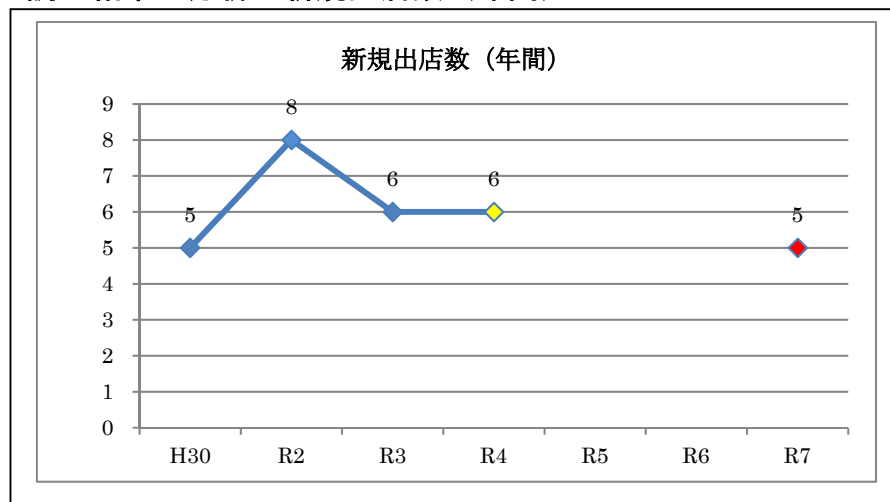
「都市福利施設利用者数」は、主要 2 事業の内 1 事業が目標を達成した。コロナの影響により、各施設で休館及び利用制限等が設けられている中で、調査した 8 施設の内 2 施設が基準値を上回ったことから、都市福利施設の利用は回復傾向にあるといえる。各公民館の利用及び事業がコロナ前の水準に回復するよう、取り組みを進めるとともに同様に、利用がコロナ前に回復することが期待されるとともに、アフターコロナに向けた民間施設の利用促進に期待したい。

◆丘のまちの快適な暮らし創造

目標指標：新規出店数（年間）

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 109～P. 111 参照

●調査結果と分析：新規出店数（年間） ※基準値は平成 20 年～平成 30 年の平均



年	
H30	5 店舗/年（基準値）
R2	8 店舗/年
R3	6 店舗/年
R4	6 店舗/年
R5	
R6	
R7	計画期間中の平均 5 店舗/年 （目標値）

※調査方法：各事業担当者より聞き取り

※調査月：令和 5 年 4 月（令和 4 年度末集計）

※調査主体：飯田市

※調査対象：飯田市空家環境整備補助金、飯田市空家改修補助金、飯田市子育て世帯引越費用補助金、飯田市空き店舗活用推進事業補助金、まちづくりカンパニー

※上記のうち中心市街地活性化基本計画のエリアのみ対象

(単位：店舗/年)

	平成 30 年度 (計画前年度)	令和 2 年度 (1 年目)	令和 3 年度 (2 年目)	令和 4 年度 (3 年目)	令和 5 年度 (4 年目)	令和 6 年度 (5 年目)	令和 7 年度 (6 年目)
新規出店数	3	8	6	6			

〈分析内容〉

今年度の「新規出店数」は6件（店舗6件、民家0件）であった。新規出店数を把握することは難しいため、調査対象を市支援策の各種補助金実績及びまちづくりカンパニーからの情報を合算し算出している。目標値を1店舗上回っているため、コロナの影響を見極めるうえで今後の経営に踏み出す状況となってきたのではないかと考えられる。また、後押しとして各事業の支援策が活用されたものであるため、今後さらなる改善が期待できるものと考えている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

(1) 新規出店数増加による効果

①地区空き家バンク連携事業

(まちづくり委員会、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	中心市街地の3地区が協働で空き家バンクを開設し、空き家・空き店舗情報を収集する体制づくりと情報発信を行うことにより、まちなかの居住環境整備を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：新規出店数：3店舗/年 最新値：新規出店数：3店舗/年（目標達成）※まちなか起業推進事業含む 調査地点：中心市街地活性化基本計画エリア 進捗状況：目標値を上回る成果を上げることができた。これは、コロナの影響を見極めるうえで今後の経営に踏み出す後押しとして各事業の支援策が活用された結果と考えられる。
事業の今後について	「地区空き家バンク連携事業」としては、全市対象の空き家バンク制度が開設されているため有効的に活用し、中心市街地限定のバンク制度の必要性や情報収集・発信についてを、まちづくり委員会とともに検討していく。

②空き家・空き店舗活用事業

(まちづくり委員会、(株)飯田まちづくりカンパニー、飯田商工会議所、(一社)空き家 人情プロジェクト、明治大学、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	地域、市民団体、各種団体が連携して空き家・空き店舗活用の実行組織・仕組みづくりを構築し、既存施設や空き家・空き店舗の調査、

	マッチング、開業支援を行うことで、歩いて買物・飲食や滞在ができるまちづくりに取り組むことにより、商業の活性化を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：新規出店数：3店舗/年 最新値：新規出店数：3店舗/年（目標達成）※まちなか起業推進事業含む 調査地点：中心市街地活性化基本計画エリア 進捗状況：目標値を上回る成果を上げることができた。これは、コロナの影響を見極めるうえで今後の経営に踏み出す後押しとして各事業の支援策が活用された結果と考えられる。
事業の今後について	地域と明治大学、民間事業者と連携し「春草通り活用事業」とも併せて春創てらす等を開催し、空き店舗等の新しい活用方法を検討・提案し、空き店舗等の活用を促進していく。

（２）来街者の回遊性増加による効果

①まちなか起業推進事業

（飯田商工会議所、（一社）South-Heart、飯田市中心市街地活性化協会、飯田市）

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	まちなかの経済的な衰退傾向に歯止めをかけるため、空き家・空き店舗活用や商業集積再生の担い手となる起業希望者育成及び開業支援を実施することにより、経済活力の向上を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：新規出店数：2店舗/年 最新値：新規出店数：3店舗/年（目標達成） 調査地点：中心市街地活性化基本計画エリア 進捗状況：目標値を上回る成果を上げることができた。これは、コロナの影響を見極めるうえで今後の経営に踏み出す後押しとして各事業の支援策が活用された結果と考えられる。
事業の今後について	中心市街地活性化協会主催で開催した、まちづくり講演会やテント市のような、事業者同士のつながりや新たな事業展開を考える機会となる場を設けるとともに、空き家・空き店舗を活用した飯田市の企業者支援制度活用を推進するため、相談窓口となる飯田商工会議所との連携を更に深めていく。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「新規出店数」は、目標値を1店舗上回っている。これは、コロナの影響を見極めるうえで今後の経営に踏み出す後押しとして各事業の支援策が活用された結果と考えられるが、物価高の影響を受け新規出店に伴う改修費や備品等が値上がりしているため、引き続き目標を達成するために、現状に即した新規出店の支援策を現在検討している。

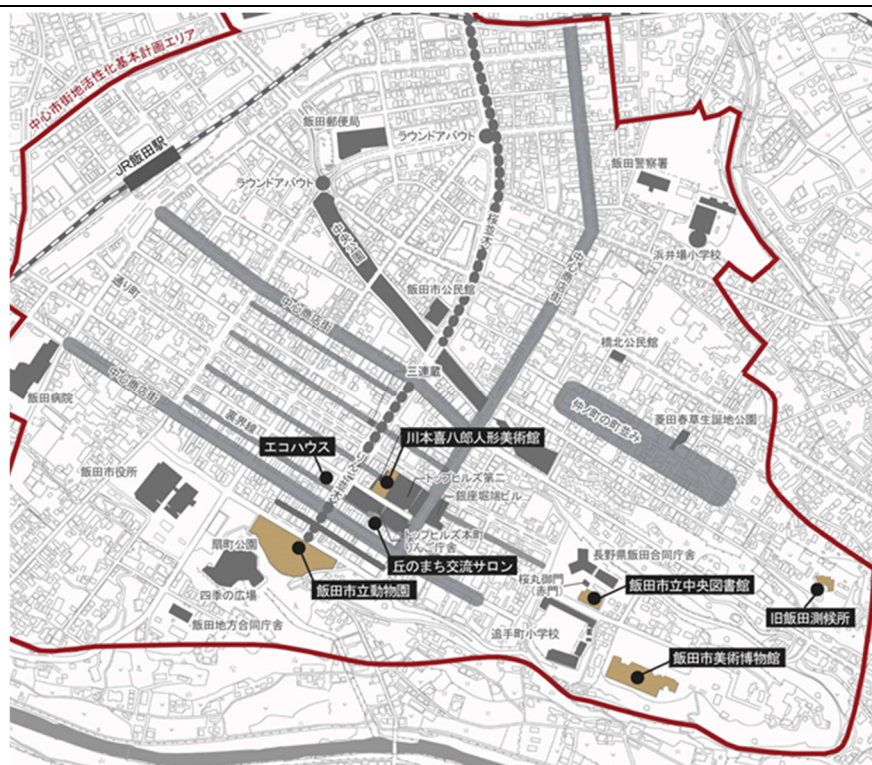
※目標設定の考え方認定基本計画 P. 109～P. 111 参照

文化・交流施設の年間利用者数

年度	利用者数
H30	284,094
R2	235,700
R3	263,697
R4	319,056
R7	299,600

年	
H30	284, 094 人/年 (基準値)
R2	235, 700 人/年
R3	263, 697 人/年
R4	319, 056 人/年
R5	
R6	
R7	299, 600 人/年 (目標値)

※調査対象：旧飯田測候所、丘のまち交流サロン、エコハウス、飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園



(単位：人/年)						
	平成 30 年度 (計画前年度)	令和 3 年度 (1 年目)	令和 4 年度 (2 年目)	令和 5 年度 (3 年目)	令和 6 年度 (4 年目)	令和 7 年度 (5 年目)
旧飯田測候所	1,312	1,254	1957	1,192		
丘のまち情報 交流サロン						
エコハウス	5,234	1,707	2,313	2,860		
飯田市美術博 物館	42,832	27,675	36,790	37,882		
川本喜八郎人 形美術館	12,256	4,482	4,514	7,431		
飯田市立中央 図書館	96,158	91,888	96,722	121,262		
飯田市立動物 園	126,302	108,694	121,401	148,429		

〈分析内容〉

コロナ前の基準値と比較し全体で約 12%増加し、目標値対比でも約 6%上回る結果となった。公共施設は 4 月及び 8 月に休館及び利用制限の期間を設けていたことを考えると、日単位の利用者数は増加していると考えられる。飯田市立動物園は昨年度比で 22%増加、基準値比で 17%増加していることからコロナ前以上に利用が促進されていることが分かる。飯田市立中央図書館は令和 4 年 5 月にムトスぷらざへ貸出スペースを設けたこともあり、昨年度比で 25%増加、基準値比で 26%増加している。調査施設は屋外または屋内でも大声を発することのない施設のためコロナの影響を受けにくいため利用促進につながったと考えられる。しかし、調査地点 6 施設の内、基準値を超えている施設は 2 施設にとどまっているため、既存施設の事業を充実させるだけでなく施設同士の連携を強化する等、にぎわい創出に向けた更なる取り組みが必要となる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

(1) 東西軸強化による回遊性増加に伴う効果

①春草通り活用事業

(まちづくり委員会、飯田市)

事業実施期間	平成 26 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	仲ノ町から旧飯田測候所を「春草通り」と命名し、地域の歴史的資源を活かしたまちづくりの活性化を図る。 旧飯田測候所に付属する測風塔を、環境教育とコミュニティ活動の拠点として地域で活用できる展望台施設等へと改修することで付加価値を与え、ソフト事業との相乗的効果を図ることにより、まちなかの賑わいを創出する。

国の支援措置名 及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（飯田市中心市街地地区）） 令和３年度
事業目標値・最新 値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：3,300 人/年 最新値：施設利用者数：1,192 人/年（目標未達成） 調査地点：旧飯田測候所 進捗状況：目標値を約 63%下回る結果となった。事業としては地域と明治大学、民間事業者と連携し「空き家・空き店舗活用事業」とも併せて春創てらす等を開催し、旧飯田測候所を拠点とした事業に取り組み、春草通り及び旧飯田測候所の新たな活用方法を提案した。
事業の今後について	地域と明治大学、民間事業者と連携し「空き家・空き店舗活用事業」とも併せて春創てらす等を開催し、春草通りや公園、旧飯田測候所等の既存資源を活用するとともに、より地域との連携を深めた事業展開を行い目標の達成を目指す。

（２）第３の居場所創出による効果

①丘のまち情報交流サロン事業

（飯田市）

事業実施期間	令和２年度～令和７年度 【未】
事業概要	中心市街地の情報提供やコミュニティ活動の拠点として、本市の施設を活用した市民交流サロンの検討と整備を実施し、官民連携の事業推進と市民活動の支援を行うことにより、さらなる丘のまちの魅力向上を図る。
国の支援措置名 及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和２年７月～令和８年３月
事業目標値・最新 値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：1,230 人/年 最新値：施設利用者数：－ 人/年（目標未達成） 調査地点：丘のまち情報交流サロン 進捗状況：丘のまち情報交流サロンは当初の予定を変更し、情報提供機能を観光案内所及びまちなかインフォメーションセンターへ、交流機能をりんご庁舎市民サロン及びムトスぶらざへ機能分散し設置している。
事業の今後について	令和４年５月にムトスぶらざが開設され、公民館事業だけでなく２・３階のフリースペースを活用しコミュニティ活動も行われている。また、令和４年５月にトップヒルズ本町１階に商業施設のなみきマーケットが開店し、さらに、店内には交流スペースも設置されていることから、りんご庁舎市民サロンも含めてまちなか居住者や来訪者に対する新たな交流の場として利用いただけるよう、さらに連携を深め事業に取り組んでいく。

②ライフスタイルの低炭素化事業

(まちづくり委員会、おひさま進歩エネルギー(株)、飯田市)

事業実施期間	令和２年度～令和７年度 【実施中】
事業概要	中心市街地にあるエコハウス、旧飯田測候所を拠点に、エコライフに関するイベントや環境教育等の省エネルギーを目指したライフスタイルの普及・啓発活動を実施することにより、快適なまちなか居住の推進を図る
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：5,434 人/年 最新値：施設利用者数：2,860 人/年（目標未達成） 調査地点：エコハウス 進捗状況：目標値を約 47%下回る結果となった。目標値には至らないが、施設利用者は前年対比で約 24%増加している。理由としては管外からの視察等が戻りつつあることに加えて、各種事業の際に施設を活用しイベントや環境教育等の普及・啓発活動に取り組んだ成果と考えられる。
事業の今後について	エコハウス単独事業での集客は難しいことから、沿線で取り組んでいる事業と連携して取り組むことで、事業の推進及び施設利用者の増加に引き続き取り組む。

(３) 来街者の回遊性増加による効果

①丘のまち回遊促進事業

(まちづくり委員会、NP0 いいだ応援ネットイデア、飯田まちなか回遊促進研究会環境文化教育機構(株)、飯田市)

事業実施期間	令和２年度～令和７年度 【実施中】
事業概要	来街者の核施設となる飯田市立動物園を軸に、りんご並木、桜並木、春草通りに点在する個店や飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館等の施設が連携し、まちなか回遊を生み出すスタンプラリー事業の展開により、中心市街と全体の商業活性へ効果が波及を目指す。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：290,243 人/年 最新値：施設利用者数：315,004 人/年（目標達成） 調査地点：飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園 進捗状況：目標値を約 8%上回る結果となった。飯田市立動物園と飯田市立中央図書館の利用者数が大きく寄与しているが、市外からの利用者が多い川本喜八郎人形美術館も昨年度比で約 64%増加し

	ているため、コロナからは回復傾向にある。事業として取り組んでいる「丘の上さんぽラリー」は、コロナ対策として期間開催とし8月と3月の2回に分けて実施した。夏休みと春休みの期間に取り組んだこともあり、例年同様の参加者を得ることができた。
事業の今後について	加盟店をスタンプラリーにより回遊してもらう丘の上さんぽラリーは屋外及び期間イベントということもあり、コロナの影響を大きく受けることなく開催できる。そのため、加盟店の追加や事業内容を見直すなど、更に楽しんでもらえる要素を充実させることで事業参加者の増加を目指す。

②丘のまちミュージアム活用事業

(まちづくり委員会、飯田市)

事業実施期間	平成 26 年度～令和 7 年度 【実施中】
事業概要	飯田市美術博物館、まちづくり委員会、地域商店街等が連携し、飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、歴史文化遺産、文化芸能、町並み、景観のすべてを地域ミュージアムと捉え、それぞれが関連するテーマを題材とする特別展示等を企画し、知的交流拠点となるまちなかを創出し、来訪者の回遊推進を図る。
国の支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：290,243 人/年 最新値：施設利用者数：315,004 人/年（目標達成） 調査地点：飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園 進捗状況：目標値を約8%上回る結果となった。飯田市立動物園と飯田市立中央図書館の利用者数が大きく寄与しているが、市外からの利用者が多い川本喜八郎人形美術館も昨年度比で約 64%増加している。
事業の今後について	各施設での独自取り組みを引き続き強化していくとともに、中心市街地の回遊を補助する電気小型バスや「ソサイエティ 5.0 社会を見据えたデジタル技術活用まちづくり事業」を有効に活用し施設同士を結ぶ取り組みを強化することで目標達成を目指す。

③ソサイエティ 5.0 社会を見据えたデジタル技術活用まちづくり事業

(丘メン実行委員会、KDDI(株)、飯田市)

事業実施期間	令和2年度～令和7年度 【実施中】
事業概要	KDDI(株)の持つ次世代デジタル技術(5G)と中心市街地の歴史的・文化的資源を活用し、新たなまちの賑わいづくり事業を毎年1地区で開催することで、関係人口づくりと来街者の回遊促進を図る。

国の支援措置名 及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業 令和2年7月～令和8年3月
事業目標値・最新 値及び進捗状況	目標値：施設利用者数：290,243 人/年 最新値：施設利用者数：315,004 人/年（目標達成） 調査地点：飯田市美術博物館、川本喜八郎人形美術館、飯田市立中央図書館、飯田市立動物園 進捗状況：目標値を約8%上回る結果となった。飯田市立動物園と飯田市立中央図書館の利用者数が大きく寄与しているが、市外からの利用者が多い川本喜八郎人形美術館も昨年度比で約 64%増加している。事業としてはKDDI 協力の基、中心市街地の魅力をスマホで体験できる「つながるスポット」のサービスを開始した。県内外で約 2,200 人が体験し関係人口増加につながった。
事業の今後について	中心市街地の魅力を遠方の方には映像で、現地へ来た方には AR で紹介する丘のまち「つながるスポット」の開始により、「現地へ行きたい」をつくる仕組みが構築されたため、現地へ来た方が更に楽しめ、回遊につながるコンテンツを作成し目標達成を目指す。

●目標達成の見通し及び今後の対策

「文化・交流施設利用者数」は、主要6事業の内3事業が目標を上回る結果となった。アフターコロナに入り市外からの人の動きが期待できることから、目標達成に向けて各施設イベント内容の充実化に取り組むとともに、施設同士の連携した事業を行うことで相乗効果を図りたい。